



中部の

# エネルギーを 築いた

# 人々

## 高岳製作所創始者で初代桑名市長を務めた 貝塚 栄之助

高岳製作所初代社長で初代桑名市長を務めた貝塚栄之助(1882~1947)は、桑名の素封家、貝塚卯之助の三男として、明治15年8月、桑名の船馬町に生まれた。津中学を経て、明治43年に東京高等工業学校(現東京工業大学)電気化学科を卒業した。卒業後は、父の友人下出民義の紹介で、名古屋電灯の技師として入社し、西春日井郡萩野村にあった萩



萩野変電所(現況)

野変電所長を務めた。同変電所は、木曾川八百津発電所の電力を受電し、市

内中心部の南武平町変電所へ地下線供給する市内供給の重要拠点であった。その後、名古屋電灯を辞し、1年余松阪工業高校電気科で教鞭をとったが、大正4年3月、父卯兵衛が逝去して家督を継ぎ、貝塚家の当主となった。

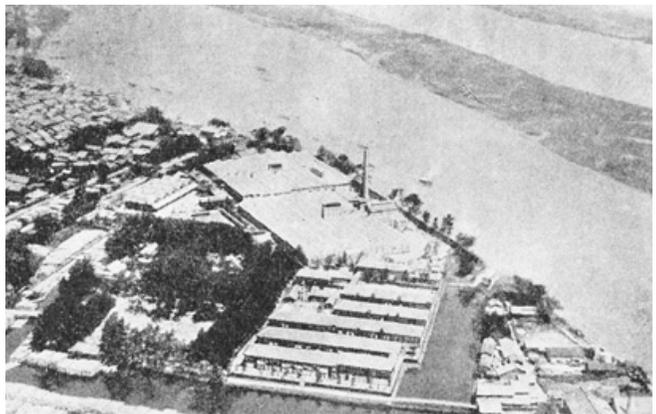


貝塚栄之助

出典：『高岳製作所60年史』

## 父貝塚卯兵衛 桑名紡績を創業

父卯兵衛は、桑名の米穀取引所仲買人として活躍し、明治14年ごろ米相場で財をなし、さらに公債の投機で巨利をあげた。その後は相場から足を洗い、明治29年4月、洋式紡績機を導入した桑名紡績を創立して社長に就いたほか、桑名商業会議所の会頭、郡会議員、北海道炭鉱鉄道監査役など幅広い活躍をした。桑名紡績は、明治40年8月に三重紡績に合併されている。その



桑名城二の丸・三の丸に建てられた桑名紡績工場  
出典：『東洋紡績七十年史』

後、卯兵衛は明治43年8月から逝去する大正4年3月までの間、名古屋電灯取締役を務めた。卯兵衛が名古屋電灯取締役に就任した臨時株主総会は、旧名古屋電力派と旧士族旧

愛知電灯派の株主とが経営権をめぐるって烈しい抗争を繰りひろげ、深夜12時になっても決着を見ず、決定したのは貝塚の取締役就任だけであった。

## 高岳製作所の初代社長

貝塚は、父から譲り受けた100町歩余の田地を持ち、300人の小作をかかえ、数名の番頭を使って事業を切り盛した。地元事業にも積極的に乗り出し、桑名電気軌道（桑名駅・本町間を結ぶ市内電車）、桑名瓦斯、桑名精工、山中清賞堂などの社長を務めた。さらに、中部地方の電力機器製造の草分けである高岳製作所の社長を23年務め、同社の発展に尽力した。同社は、大正7年3月、第1次大戦ブームのなか、電気機器の国産化を目指して設立された会社であり、貝塚の東京高等工業時代の友人で、名古屋電灯の同僚でもあった佐々木綱雄との共同事業としてスタートした。社長の貝塚は主として資金関係を担い、佐々木は専務取締役として技術、製造を担当した。工場用地は、高岳町にあった元愛知物産組（織物会社）の工場跡（4000坪）で、父卯兵衛が桑名紡績の関係で所有していたの

を貝塚が提供した。しかし、都市計画道路（桜通り）の計画により、用地の大部分が道路に指定されたため、昭和17年、西春日井郡枇杷島町に新工場を建設して移転した。（高岳町工場の一部は現在関西電力東海支社となっている。）高岳製作所は、当初柱上変圧器を製作し名古屋電灯向けに納入していたが、その後断路器、遮断器、配電盤などを手がけるようになり、静止電力機器の総合メーカーとして発展した。貝塚は、昭和15年、所有する株式の大部分を王子電気軌道に譲り、同社の事業から手を引いている。王子電気軌道はそ



佐々木綱雄  
出典：『高岳製作所60年史』



高岳製作所  
出典：『高岳製作所60年史』

の後関東配電に統合され、東京電力系の重電機メーカーとなっていたが、平成26年4月

に高岳製作所と東光電気が合併し、(株)東光高岳と商号を変更した。

## 初代桑名市長

貝塚は、昭和5年に桑名町助役、昭和9年には桑名町長に推され、昭和12年桑名の市制実施とともに、初代桑名市長に就任し、昭和20年6月迄の8年間務め、桑名の発展に尽くした。戦時下、桑名市の指導者として、桑名市教育会長、桑名市仏教会長、桑名市尚武会長など数多くの役職を兼務した。

歴史学者(東洋史)で京都大学教授を務めた貝塚茂樹(旧姓小川、湯川秀樹の兄)は、貝塚栄之助の長女美代と結婚(昭和8年)した。昭和19年6月、海軍予備士官として従軍していた貝塚の長男嗣郎がマリアナ海戦で戦死をとげたので、栄之助たっての要請で、昭和20年貝塚家の養子となった。貝塚茂樹は晩年の岳父栄之助について「昭和二十年八月には桑名市大空襲によって船馬の本宅、七つの倉はすっかり焼け落ちた。桑名市長をつと

めていた養父(栄之助)は市民への配慮から、ほとんど疎開させなかつたので、骨董を初め、家財いっさいを喪失した。昭和二十年の終戦とともに市長を辞した養父は二十二年暮、財産税と農地解放の打撃もあって、六十五歳で急死した」と述べている。写真、謡曲、骨董が趣味で、特に硯石の蒐集では第一人者であった。

なお、桑名市役所正面西北隅には、貝塚の功績を称え「元市長貝塚栄之助氏頌徳碑」(昭和30年建立)と記された銅像が建てられている。また桑名市内堀、九華公園南側に、「貝塚公園(貝塚不忘園)」が昭和44年に開園した。もと貝塚家の別邸のあったことに因んで名付けられたもので、園内には「桑名空襲慰霊之碑」が建てられ、終戦直前の桑名空襲の状況が記されている。(浅野 伸一)



桑名市役所前の「貝塚栄之助胸像」



貝塚公園



貝塚公園内の「桑名空襲慰霊之碑」